

はじめに

一章 天保二年という年 世相へのウガチ

シーボルト事件と伊能地図、「東海道名所図会」から「東海道名所一覽」へ  
絵本「百富士」の影響、西村屋と北斎による大量の錦絵開版と「千絵の海」の追加版行  
絵本「富嶽百景」の意義—富士山の歴史と文芸史

二章 地誌絵の大成者・前北斎為 狂歌俳諧の真実

「富嶽三十六景」四十六枚の構成の特徴、山水画の系譜にある三枚の絵の主題  
狂画の系譜にある二枚の「略図」の主題、景観画の系譜にある「相州七里ガ浜」の謎

三章 九枚の東海道の富士

四章 十三枚の東都の富士

五章 十八枚の諸国の富士 **まとめ一覽「富嶽三十六景」全四六枚の主題**

〈コラム〉 白描の富士

六章 北斎筆「諸国瀧廻り」「諸国名橋奇覽」を合わせて見る、「千絵の海」の主題は何か

〈コラム〉 日光女峰山と記紀伝承

**まとめ一覽 「滝と橋シリーズ」は富嶽三十六景の補完シリーズ**

**まとめ 千絵の海シリーズの内部連関**

〈コラム〉 外八海と二つの桜池

七章 龍の棲む日本

「大日本国地震の図」考、中世の弁財天信仰、徳川の国土認識、  
龍神図と古事記・万葉集、

**出雲・伊勢ラインと奈良京遷都の意義**

〈コラム〉 住吉三神と記紀伝承 〈コラム〉 大和三山と記紀伝承

八章 数理表章と古典文芸 ダンテの神曲・和歌技法と西洋修辞法・十王経

交差配語法と記紀伝承（海幸彦と山幸彦を例として）

十王経から十三仏へ、その数的構成

九章 北斎の「文昌星図」と古事記の神名解説

九章の一 北斎の「文昌星図」

九章の二 和歌技法でよみとく古事記の神名～倒語、物名、交差配語

**倒語による神名「イザナギ・イザナミ・スサノオ」の語義の抽出**

**物名による神名「天之御中主神・建御名方神」の語義抽出**

**交差配語による神名「三前大神」の語義抽出と渾天説・蓋天説の位相差**

服部中庸の「三大考」について、星神香香背男と倭文神建葉槌命、大宜都比売神と提喻

〈コラム〉 女媧と伏羲九章の三 古事記・上巻の縦構造

九章の四 経度緯度の導入と稗田阿禮

〈コラム〉 大津京跡（北緯三五度・東経一三六度）

九章の五 記紀を受け継ぐということ

あとがき